

研究プロジェクト F

小学生と大学生の異年齢交流が子供の社会性の育ちに与える影響

－ 子供教室における実践的検討 －

1. 研究背景

2014年度より開始された「放課後子ども総合プラン」は、共働き家庭の増加などにより生じている「小1の壁」を打破するとともに、次代を担う人材の育成するため、全ての児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう放課後児童クラブ及び放課後子供教室の計画的な一体型の整備等を進めるものである。現状としては、少子化による兄弟の減少とSNS・電子ゲーム機の普及で子供の異年齢交流の機会や社会性の育成の機会が減っているなどの課題が見受けられる。春日部市は、全国と比較して、年少人口割合が低く、老年人口割合が高く、合計特殊出生率は1.17と低く、今後の少子化がさらに進むことが予想される。また、女性の就業率は、結婚・妊娠・出産等によりM字型のカーブを描くが、東京都や神奈川県と比較して、春日部市はM字型のカーブが平たいことから、共働き世代が多い。今後の少子化がさらに進むことが予想されるとともに共働き世代が多い春日部市に焦点を当てる。

2. 研究目的

春日部市子ども教室の小学生と大学生の異年齢交流の体験活動等を通して、子供の社会性への影響を明らかにする。

3. 研究概要

本研究では、文部科学省による、すべての子供を対象に、地域の方々の参画を得て学習や様々な体験・交流活動、スポーツ・文化活動等の機会を提供する取り組みの「放課後子ども教室」に着眼し、子ども教室への大学生の介入（異年齢交流）を通じた子供の社会性への影響を検証する。昨年度は、研究1として春日部市放課後子ども教室の実態とニーズを明らかにするために①コーディネーターから見た子ども教室で過ごす良さ、大切にしていること②子供ども室の企画・運営にあたり、困難に思うこと③大学生が子ども教室に参加することで期待されることやメリットのインタビューを行い、今年度はインタビュー内容から逐語録を作成し、分析データとし、質的に分析する。また、研究2として放課後子ども教室への介入校等を決定、大学生と児童の交流による介入を通して、社会性への影響を縦断的に検証する。

4. 研究体制

研究リーダー：上原 美子（共通教育科准教授）

研究メンバー：張 平平（看護学科准教授）、森田 満理子（社会福祉子ども学科准教授）

保科 寧子（社会福祉子ども学科准教授）、黒田 真由美（看護学科助教）

望月 浩江（看護学科助教）

外部メンバー：藤枝 静暁（埼玉学園大学教授）、松本 佳子（日本赤十字看護大学准教授）